

会長挨拶

第4代同窓会会长
元勝田高等学校PTA会長
黒澤 敦（5回生）



第6回勝田高校同窓会総会に際して

本年も、このように多くの同窓生の皆様にご参加をいただき、6回目となります勝田高校同窓会総会が開催できることを、心より嬉しく思います。さる3月1日には第43回となる卒業式が母校にて行われ勝田高校の卒業生であると言う新たな私たちの仲間がそれぞれの進路へと踏み出しました。すでに約10,000名をこえる勝田高校の同窓生ですが、地域社会におきまして色々な場で活躍されております。現在の勝田高校には 5人のOBが先生として母校の生徒を指導されています。

また地元のひたちなか市役所には100名の歴代の卒業生が勤務されており、市議会にも二人の卒業生が議員として活動しております。

さらには、本年1月に茨城県警察本部、勝田高校OB会「銀杏会」が発足され、120名もの卒業生が県内の安全、安心のために活躍しております。

また、民間企業においても多くの卒業生がお互いに連絡を取り合いながら、ネットワークを広げています。

この、勝田高校の卒業生であると言うひとつの共通項をもとに、互の親睦を深め発展させ、さらには、地域社会へ貢献することが同窓会の大きな役割ではないかと考えております。

本日の総会には、地元茨城県のみならず周辺都県から多くの卒業生や恩師の先生方にご参加いただきました。

また、今総会の開催にあたりまして、勝田高校の卒業生はもちろんのこと、同窓会を盛り上げようと年齢に関係なく熱い心を持った方々が集まり、話し合い、時には意見をぶつけ合いながら準備を進めてまいりました。

彼らの熱意と行動力と先輩を先輩とも思わない団々しきが無かつたら、このような総会は開催できなかつたかもしれません。心から感謝いたします。今後も、同窓会の親睦のため、母校の発展のため、そして何よりも今勝田高校で学ぶ生徒たちのためにも尽力してまいりますので、同窓会活動に関しまして、皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



昨年、45周年記念式典の様子

学校長挨拶

茨城県立
勝田高等学校長
澤畠 保男



同窓会員の皆様には、
平素より本校教育活動に
多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申
し上げます。

4月に本校に赴任して以来、感心している
ことを3点申し上げます。

1点目は、素晴らしい進路実績です。生徒
たちは、入学後3年間で、飛躍的に学力を伸
ばし、進路希望を実現しています。そこには、
弛まぬ努力を続ける生徒たち、そして生徒た
ちの能力を引き出して伸ばす教員がいます。
学習館やエアコン等の学習環境も整っています。

2点目は、80%の生徒が部活動に加入して
いることです。部活動で得られた「集中力」や
「忍耐力」は学力向上に繋がっています。社会
で必要とされる「礼儀」や「コミュニケーション能
力」も部活動によって身に付きます。本
校は、「学習か部活動か」ではなく、「学習も
部活動も」を目指せる学校です。

3点目は、同窓会が活発に活動しているこ
とです。1万人を超える同窓会の皆さん
が社会で活躍されているばかりでなく、役員を中
心に生き生きと楽しみながら同窓会で活動さ
れていることは、本校にとっても大きな誇り
です。皆様の母校である勝田高校は、同窓会
の皆様にとって「いつでも帰れる場所」であり、
「心の居場所」として存在し続けます。学校と
しましても、皆様のすばらしい活動をさらに
多くの同窓会の皆様にお伝えできるよう、学
校ホームページからも同窓会ホームページに
リンクできるようにいたします。

最後になりますが、私ども教職員一同は勝
田高校の更なる充実発展に努めるべく、同窓
会の皆様に温かく見守っていただきながら、
生徒や保護者とともに鋭意努力してまいりま
す。

今後とも、同窓会の皆様の変わらぬご支援
とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申
し上げます。

学校内幹事挨拶

勝田高等学校職員
第8回卒業生
筑内 雅明



日頃より本校の教育活動
にご支援とご協力をいただき
感謝いたしております。

教職に就いて約30年、まさか母校の教壇に
立てるとは思いもよらなかつたことです。しか
もかつて自身が学んだ1年1組の教室に、今度
は担任として戻ってくることができるなんて、
これほど幸運な教員はめったにいないことでしょう。
当時は学習館や洗心館といった施設はも
ちろん、教室にエアコンなどもなく、着任初日こそ
「やっぱり時代は変わったんだなあ」と、なん
となく距離感を感じましたが、入学式前日、
新入生を迎える準備をしながら教室の後ろにあ
るロッカーを何気なく開けた瞬間、35年とい
う幾年を一瞬にして巻き戻してくれました。
ちょっと開きにくいあの扉の感触、中をのぞき
込む腰の角度、ベランダの窓から入ってくる日
差し、そんな些細なことが私の大脳皮質の奥底
にある記憶を呼び戻し、「自分は確かにここに
いた」と実感できたのです。

後輩でもある本校の生徒は、学校の誇りであ
り地域の貴重な原石といえます。これまで何度
か大学見学会や全日HRのために生徒達を校外
へ引率しましたが、どこへ連れて行っても恥ず
かしくない礼儀や気配り、高校生らしい興味関
心度を十分に備えています。

ただ一つ、贅沢を言わせていただければ、彼
らの夢や希望が現実的すぎるということです。
私は、この年代はもっとはじけるような夢や自
分次第で何でもできるという希望的感覚があつ
ていいと感じています。そのためには身近な大
人の代表である我々職員や保護者、そしてOB
の方々が生き生きと活躍している姿を見せる
ことが一番ではないでしょうか。貴重な原石を数
年後にピカピカに輝かせるために、生徒達を温
かく見守ることはもちろん、まずは私達自身を
磨くことから始めませんか。ご協力よろしくお願
いいたします。

PTA会長挨拶

高丸 誠司（14回生／ラグビー部）

ひたちなか・東海広域事務組合東海消防署 指導救急救命士



本年度PTA会長を努めさせていただきます、14回生高丸誠司と申します。私は平成元年に、長女は平成28年に勝田高校を卒業し、3年生に長男が在学して親子共々勝田高校で学ばしてもらったこともあります、特に私は、卒業後30年という節目の年で何かの縁と思い会長という大役を引き受けました。

近年、大学入試制度の改正、格差社会による教育問題と子供達を取り巻く環境が著しく変化していく中で、子供達が楽しく落ち着いて学校生活が送れるよう、またPTA役員一同も楽しく、子供達のために活動が出来ればと思っています。保護者の皆さんと先生方、地域の皆さん、そして同窓生の方々のご協力をいただき、一年間大役を務めさせていただきたいと思っております。

同窓会に寄せて

銀杏会会长（茨城県警察本部内勝田高等学校同窓生の会）

茨城県警察本部交通部長

警視正 田中 忠義（3回生）



第6回、同窓会総会の開催、誠におめでとうございます。

私は、昭和50年、勝田高校に3回生として入学し、それから今年で43年が過ぎます。10年ひと昔と言いますが、やはり40年以上も連つと隔世の感があります。

当時は、グラウンドもまだ未整備で、体育の時間にとんぼを持って、グラウンドの整備をしたり、当然プールも無く、近隣の高校まで歩いて行き、そこのプールを借りて授業を受けた記憶もあります。また、周辺にはコンビニ等もありませんでしたから下校途中に買い物も出来ません。

中でも、一番の思い出は、今では勝田高校の伝行事と勝歩会でしょうか。当時はまだ歴史も浅く、試行錯誤しながら両行事に取り組んだ記憶があります。特に勝歩会では、かなり大きなクラス旗を作成して竿に取り付け、これを私他何人かの級友が交代でゴールまで担いで運んだ記憶があり、やはり若い力というのはすごいなと今更ながら感じております。今でも重そうに旗を担ぐ自分の写真を見ると笑ってしまいます、こんな経験が級友との団結心を培ったのかと思います。

ところで、勝田高校を卒業し、県内の安全、安心を守ろうと、志を同じくして、本県警察職員に奉職した卒業生が、平成30年4月1日現在で、何と120人もおります。

実は、本年1月、これから卒業生がお互いに語り合い、助け合いをもって良好な人間関係と融和団結を図り、最終的には県民の皆様の安全と安心を守ることを目的として、茨城県警察勝田高校OB会「銀杏会」を発足し、その発足総会には黒澤同窓会会长にもご出席いただき、ご挨拶を頂戴したところです。ありがとうございました。

今後とも「銀杏会」を核として、勝田高校卒業生が一致団結して、県内の治安維持のため職務に推進して参りたいと考えております。

結びに、母校と同窓会のご発展と卒業生の皆様の益々のご活躍を御祈念申し上げます。

前勝田高等学校同窓会 副会長挨拶

野木 滋（2回生）

(株)有路工務店 代表取締役



平成25年（2013）3月25日、アジュールひたちなかに295人を集めて行われた初めての本格的な同窓会総会、ここで黒澤敦会長を始め同窓会役員が一新されました。それまでは同窓会員に案内を郵送するだけで100万円以上かかる等の問題から毎年の総会は困難なものでした。しかし13回生の佐藤久彰さんが提案したインターネット上のSNSサービスの一つFaceBookを利用した連絡網整備をこの第1回総会の開催を通じて行い非常にローコストかつスピーディーな今日の体制が出来上りました。

現在の役員会や各種会議の連絡はすべてこのSNSによって行われています。新しい役員により発案される数多くの会議やイベントは他校の生徒や地域の人々に称賛され勝田高校卒業生の名声を高めると共に勝田高校のブランドも高めています。

もちろんこれには大きな弊害があります。卒業回数2桁のみなさんには当たり前なSNSは1桁のみなさんの多くにとっては未知の領域であることも確かなので、お叱りをうけることも度々でした。しかしこれは1桁代の卒業生が努力すれば良いのです。携帯電話を持っている方が大部分でしょう、ちょっと周りの人に教えてもらえばよいのです。

1973年に開校した勝田高校は45年が経過し昨年第1回生が60歳になり定年退職の年代になりました。それと同時にこれからまだ多くの卒業生が同窓会に加入してきます、時代は進み世の中はどんどん変わっていきます。勝田高校同窓会は多世代にまたがった同窓生をまとめそして支援し益々の発展と貢献をしていかなければなりません。これからも皆様のお協力をお願いします。

お知らせ



**文化事業も行っています！
世界に誇る話芸、人間国宝も生み
出す「落語」を味わって下さい！**

恒例！始まりますと引き込まれ、笑い、ときどき、ほろりと涙。二笑亭ちゃん平師匠とお仲間のまさに寄席を実現しております。

芸の素晴らしさで、大笑い。そのまま忘年会へ流れ込み、笑って納めて、新年会は笑ってこと始め。はじめは抵抗あるものの、聞いてみると予想外に楽しく落語の魅力にはまった貴兄も多かったのが印象的。**忘年会、今年は12月1日開催です。**

来年の**新年会は、2月9日**を予定しております。奮ってのご参加お待ちしております。



お知らせ



昨年大好評の親睦列車。ご家族でどうぞ今年は9月8日です！

地元ひたちなか海浜鉄道を一両貸切って、走る車両で親睦会。ご家族参加が毎年いらっしゃいます。お子様も元気♪この列車が初めての同窓会参加の方も多かったのも印象的でした。とにかく何やら楽しいのです(#^^(#)奮ってのご参加お待ちしております

ウダーベ音楽祭について

勝田高等学校同窓会主催
ひたちなか市制施行25周年記念事業

■開催趣旨・コンセプト

この6年間、近隣同窓会にはないほどのあの手この手の活動、発信、各種イベントを実行し、昨年迎えた創立45周年。もう一踏ん張り会員の掘り起こしを考えた際に、圧倒的な発信力とニュース性、そして低コストで公益性と参加しやすさ、みんなに大喜びされるイベントを考え続けて参りました。

注目したのが、常陸大宮市の市制施行10周年で開催された「ウダーベ音楽祭」です。市全体で、老若男女が参加できて、なおかつ各地域の特徴が出せて、さらに市民が一体感を感じられて、楽しいイベント。自分の出身の小学校の校歌を大会場の舞台で歌おう(うだーべ)、というもの。

■ひたちなか市制施行25周年

ちょうど！ひたちなか市は来年合併25周年を迎えます。今、ひたちなか市内には20校の小学校があります。近い将来合併される学校が3校、在校生数が10名を切っている学校もございます。市民による合唱祭の他に今ある20校の校歌と歴史をつづった小冊子の作成や市民で歌った校歌のDVD作成、教育委員会はじめ小学校や図書館などへの配布事業なども行う予定です。

■開催にあたって

尚、実施にあたっては、常陸大宮市まちづくりネットワーク・ウダーベ音楽祭実行委員会の協力頂ける他、ひたちなか市、教育委員会、PTA、各自治会、ひたちなか商工会議所など各機関との連携は密に図って参ります。



第6回勝田高等学校同窓会主催 フォトコンテスト開催します！

恒例！フォトコンテスト。プロの写真家岡崎さん（19回生）による写真講座を用意するなど在校生だけではなく、同窓生を含めて楽しめた企画です。

今回は、コンパクトデジタルカメラ、一眼レフなども含めより高度な技を競って頂けるものと期待です。



役員紹介

会長	黒澤 敦 (5)
副会長	阿久津 隆男 (7)
	大谷 浩一郎 (9)
事務局	佐藤 久彰 (13) (事務局長)
	鈴木 道生 (26)
会計	小池 光浩 (7)
監査	太田 真理子 (13)
常任幹事	斎藤 文隆 (2)
	鹿志村 武史 (5)
	佐藤 真人 (7)
	植野 健一 (10)
	平野 壱久 (11)
	萩谷 公康 (11)
	大内 浩 (11)
	大貫 但尚 (11)
	人見 孝 (13)
	鬼澤 豊孝 (13)
	黒澤 務 (13)
	俵 はるみ (13)
	藤谷 美幸 (13)
	中里 隆幸 (13)
	国井 謙一 (13)
	関谷 久美子 (13)
	高丸 誠司 (14)
	中村 優子 (14)
	堀川 智也 (18)
	岡崎 伸一 (19)
	畠山 元気 (22)
	鈴木 達也 (22)
	大内 聖仁 (24)
	石田 拓郎 (26)
	七部 努 (26)
	高野 龍 (31)
	櫻井 瑶子 (41)
	門脇 梓 (42)
顧問	永井 資郎 (1) (初代会長)
	柳田 尚久 (1) (前会長)
	大貫 裕治 (1) (前監査)
	野木 滋 (2) (前副会長)

会員寄稿

同窓会によせて
照沼広生 (2回生)
水戸市役所



自分が入学したのは昭和49年なのでもう40年以上前ですが、色々と思い出があります。ちょうど茨城国体の年だったので、国体の強化教員がいました。久野先生という物理の先生で口癖が「つえーな、おめーら」でした(笑) 1、2年生しかいない野球部が夏の高校野球地区予選に果敢に挑戦、大応援団を編成し応援するも一回戦の波崎高校に見事にコールド負けしたこと(泣) プールが未整備だったので水泳の授業は高専のプールを借りていたこと。勝田名物の空っ風が吹くと校庭に砂嵐が舞い「足崎砂漠」と呼ばれていたこと。まるで神話のようですが、今の母校の発展ぶりを見ると昔日の想いがあります。創立当初の校則では制帽があったのですが、生徒会が「制帽廃止」を学校側に要求するために逆に男子生徒全員に制帽を着用することを求め、それが達成できたのです。 「規則は守ろうと思えば守れる」という事を実践して見せた上で、不要な校則は廃止すべきという生徒会の主張を学校側に認めさせて校則を変えることが出来ました。今では良い思い出ですね。

同窓会によせて
荒尾秀春 (2回生)
保険会社勤務

我々2回生を設立二年目の起業家に置き換えてみると。設立二年目。目論見書どおりに業績が推移するかどうか社長はもとより社員も株主も銀行も注視し行方は社長の双肩にかかっていた。設備は電話とFAXぐらい、会社のファンもいない実績もない、ましてブランドなどまだ先の話。すべてがこれからの努力にかかっている。そんな時代だった学校の場合はどうなのであろうか。 OB不在。進路実績なし。校風などまだ先。足りない設備もある。先生方も他校から異動された方が殆ど…。インターネット環境はない(当時はやっとMS-DOSがリリースされたばかりだった)。FBやSNSがある筈もない。 校舎が建てられた場所も周囲は民家か畑か田んぼ。近くに高専はあるが。そんな外部環境のせいもあって、我々は外部からの情報(=刺激)に対して極めて疎かだったと思う。 勝田高校は、不安と期待、心配と楽観、それら相反する感情が入り混じった状態で船出したのだ。「会社立上げ」という言葉を最近はよく

会員寄稿

耳にするが、学校も同じで、黎明期に将来を見据えてご尽力頂いた当時の先生方のご苦労様を思うと頭が下がるのである。

同窓会によせて

人見 孝 (第13回生)

人見屋店長 (勝田駅至近で営業)

わたしが卒業して30年以上経ちました。当時部活に所属せず、20代の大半を東京で過ごしていたこともあり母校との繋がりが気薄でしたがボランティア的の社会活動で再会した勝田高校同級生に誘われこの同窓会に参加させていただいております。



飲食店勤務ということもあり総会や懇親会、企画イベントなどに中々参加できていない状況ですが勤務地が勝田駅近くなので先輩、後輩とわざたくさんの卒業生の方々にお逢いできて嬉しい限りです。エッ！この会社の社長さんも勝高なの!?と驚くことが何度もあります。

そんな素晴らしい卒業生をSNSをも駆使し世代を超えて集まれる勝田高校同窓会にこれからも微力ながら協力して応援していきたいと思います。

同窓会によせて

岡崎 伸一 (第19回生／バレーボール部)

WOM STUDIO 代表

第6回同窓会総会の開催おめでとうございます。



現在、私は写真スタジオの代表兼カメラマンとして活動しており母校である勝田高校とはフォトコンや写真講座などで関わる機会をいただいております。

このような形で卒業後に関わるとは、学生時代にはまったく考へてもなかつたわけですが、そのような機会を与えてくれた同窓会に感謝すると共にあらためて卒業生のネットワークはいいなと感じるきっかけになりました。

勝田高校には思い出はたくさんあるけど、ほとんどの思い出が部活と、その仲間たちと遊んでたなが大

半をしめてる学生生活でした。当時カメラマンという職種に自分がなれるとも思ってなかつたと思いますが、なににでもなれる自由さが勝高にはあると思います。そしてなににでもなれた大人と出会えるのが同窓会の魅力。これからも、なににでもなれる・できるを感じながら同窓会で様々に方に出会えるのが楽しみです。

まとまわない文章となってしまいましたが、これからも母校と同窓会のさらなるご発展と皆さまの今後益々のご健勝、ご活躍を心からご祈念いたします。

高校生活の思い出

小林 寛 (第32回生／バスケットボール部)

ひたちなか市役所

高校生活の3年間を振り返ると、とても充実し、かけがえのない楽しい時間だったと思います。私は、バスケ部に所属していました。決して強くはありませんでしたが、毎日仲間たちとボールを追いかけていた頃が懐かしいです。当時に戻れるのであれば、戻りたいぐらいです。その仲間たちとは、今でも交流があります。これからも、勝田高校での思い出を大切にしたいと思います。



昨年、卒業してから久しぶりに勝田高校に行く機会がありました。それは、高校2年生に選挙について知つてもらうために、選挙出前講座の講師として行きました。在校生には、とても礼儀正しくすがすがしい印象を受けました。そして、何よりそんな在校生を見て誇らしく思いました。

からの同窓会と母校のますますのご発展を心よりご祈念申し上げます。



同窓会入会式 毎年2月28日開催



★同窓会に参加しよう！

- 1) イベントや事業のお誘いは、下のQRコードからメールアドレスやお名前などの登録をお願いします。
- 2) 役員会に参加しよう。役員会では、事業の計画・予算の執行・委員会の設置をし、顔の見える形で運営されています。現在、同窓会では、若い方々のご意見を渴望しております。是非とも、お力を貸して下さい。案内は、先ほどのメール、勝田高等学校F B支部、公式ホームページで案内します。



●編集後記：昨年、義父が生死をかける大病を患ったものの復活し今では元気。その義父、働けないのが悔しいと、こっそりトラクターに乗ってみたり、軽トラに乗ってみたり元気はつらつ。一方自分はと言うと、朝からダルイ、老眼、目が霞む、集中力が、気合いが入らない、髪は抜けるなど厄介ばっかり。トホホである。ところが現金なことに夕方からは元気なんです。「ドクターがダメというもの 全部好き」お馴染サラリーマン川柳だ。まさにそうなのである。お酒はちゃんぽん、シンデレラ時間にこってりラーメン。この歳になれば、大概なんでも一応聞いたり知ってる。頼みもしない説教はイイ。分かっているのである。（さ）

勝田高等学校 同窓会

検索



校歌

田口五郎：作詞

臼井英男：作曲

筑波の峯の空青く
白雲あわく よぎるとき
ああたらさきの 学舎に
伸びゆくいのち
われら ひらかん

旭日高き 東海に
熱砂をかたく ふみしめて
おお建学の 意気高く
限りあるみの
ちから ためさん

那珂の流れに 波さわぎ
暗雲ふかく とざす日も
いざともがらよ 手をとりて
明日の郷土を
ともに になわん



茨城県立勝田高等学校同窓会

<http://katsuta-ob.org>

info@katsuta-ob.org

平成30年7月吉日発行

発行責任者 黒澤 敦（5期）

■編集／構成／デザイン
佐藤 久彰（13期）